

高岡市総合計画審議会 みらい部会 会議要旨

日 時 令和8年6月5日（金）午後6時～午後8時

場 所 高岡市役所議会棟 第一委員会室

出席者 別紙のとおり

2 議事

(1) 第5次基本計画の「現状と課題」及び「施策の展開」について

(2) その他

《委員》

5（3）について。「核家族化の進行」という表現はまだいいが、「女性の社会進出」という表現は、女性が働いてはいけなような感覚がある。表現を変えると、「ジェンダー平等」という言葉があったが、その言葉に置き換えることはできないのか。

《事務局》

表現については、見直しをさせていただきたい。

《委員》

すばらしいことが書いてあるが、全てを進めていくということが前提なのか。優先順位があって、困っているところから進めていくのか。今後どういう方向で進めていくのか。

《事務局》

12のめざすまちの姿ごとに施策があり、それぞれの施策を展開し事業を進めていくことになる。全てのことが一気にできるわけではないので、優先順位を考えながら、施策や事業を推進していく。

《委員》

本日は、優先順位は考えなくていいということでよいか。

《事務局》

今回の主旨としては、現状と課題、施策の展開の確認ということで、現状認識が違うとか、別の視点があるのではといったことを議論いただきたい。個別事業や目標値は今後議論をしていくことになるので、本日は現状と課題、施策の展開についてご意見をいただきたい。

《委員》

5（1）「こどもの居場所づくりの推進」、居場所づくりということで、いろいろな団体が多様化する子どもたちのことを、みんなで見守っている。

居場所というのは子どもだけではなく、大人も子どもも安心できる場所が必要なのではないか。

安心できる場所があるということを示していくことも大事なのでは。

《委員》

人口が急速に減っていくということで、施設を維持して効率化できるのか議論していく必要がある。医療の分野でいえば、8（2）「持続可能な地域医療体制の構築」について、市民病院を充実させると書いてあるが、人口減少の中で4つの公的病院を維持できるかと言うと難しい。保育園や小学も効率的な運営を考えると集約化となるが、どう考えていくかは大事なことである。

地域医療構想は、高齢者がピークアウトしていくことにあわせ、役割分担をしようという考え。高岡市民病院はどう役割分担するのか、どのような役割を担うのかを明確にしていきたい。

《事務局》

地域医療構想は県で策定していくことになるが、病院の機能を医療圏域として整理しながら、2040年に持続可能な体制を構築していくという流れで進んでいる。

そういった中において、「市長と公的4病院長の持続可能な医療を考える会」を開催し、意見交換をはじめたところ。会議での議論を踏まえながら、高岡市民病院としてどのような方向に進んでいくのか検討していきたい。

《事務局》

保育園の話については、こどもが減っていく中、保育園の老朽化も進んでおり、施設を集約していくということを考えていく必要がある。

公立園はセーフティネットとして多様化するニーズに対応し、市域全体で保育士の研修機能を持つなど、公立と私立で役割分担していきたいと考えている。

《事務局》

平成29年に小学校の統合再編の計画がはじまり、今まさに進めているところ。定塚・平米小学校区、五位小学校区、西部小学校区と統合再編を進めているが、生徒児童が減っていく中で、計画的に進めていく必要がある。

こどもが減ったから学校を減らせばいいという問題ではなく、地域の皆さんと一緒に学校のあり方を考えていくということを進めている。今後30年となると、さらにこどもの数が減ってくる中で、どのように再編統合を進めていくのかは大きなテーマである。こどもの数が増えている小学校区もあるため、人口動態を見ながら地域の皆様と学校をどうするか考えていきたい。

《委員》

高岡西部小学校区において、統合の準備を進めている。PTAは学校と相談する機会があるので、市の方向性はなんとなく分かっているが、一般の保護者はほとんど知らない。どう進んでいくのか、十分な情報の共有がなされていないと感じるため、説明してもらえると大変ありがたい。

保育園について、こどもは減っているが、保育園には空きがない、未満児を預けることができず、遠方の保育園に預けている保護者もいると聞く。保育教諭が足りないことも、保育サービスの低下に直結していると思う。行政には現場の声をもっと拾っていただきたい。研修や講習だけでは

なく、現場の話を共有する場があったら良い。

《事務局》

再編統合について、PTAや地域の方々には、多大なるご支援、ご協力をいただいている。再編統合を進める中で、保護者が準備しなければならないことがあることも理解している。保護者の方には、方向性など学校を通じて情報発信していきたい。

《事務局》

保育士については、配置数が決まっており、決まった人数を配置している。保育士に限らず、障がい、介護の分野においても担い手が不足している現状がある。人材の確保は難しいが、皆様のお知恵を借りながらやっていきたい。現場の声を拾うことについては、仕組みを検討していきたい。

《委員》

7（3）「高齢者への支援」について、この10年で老人クラブの会員数が半減した。こうした現状の中、「高齢者介護サービスの計画的な整備」や「人材の確保」は、言葉では分かるが、具体化するのには難しい。介護サービスについては、元気な高齢者が担うことを進めていく必要がある。

自分のことは自分ですするという事に踏み切っていく必要があると考えている。

《事務局》

様々なところで力を発揮していただき、ありがたく感じている。介護施設でも元気な高齢者の方に働いてもらうため、シルバー人材センターと連携し、元気な高齢者とマッチングする事業など、高岡市も関わりながらやっているところ。

《委員》

「7 誰もが自分らしく暮らしている」（1）困難を抱える方々への支援について、障がい福祉サービスの利用者は増加傾向にあるとのことだが、軽度の障がい福祉サービスについては、民間参入が激しい。ただ、重度の障がい福祉サービスは相変わらず少ない。高岡市に対しても、市民病院で医療型のショートステイをして欲しいという要望があるかと思うが、ニーズに応じた方向性、優先順位など、福祉人材が確保できない中、集約化ということも含め考えることが必要。

包括的に対応できる人材の確保が大変難しい。大学も少なくなっており、育成機関と連携しなければ人材の確保は難しい。

（2）子どもや子育て家庭への支援について、不登校児童生徒、特別な支援を必要とする児童生徒、外国人児童生徒に対して、教育総合支援センターが開所したのは大変ありがたく、期待をしているところ。「総合的な支援の推進」とあるが、「総合的」は抽象的な表現であるため、関係機関がどう力を合わせれば友好的に動いていけるのかを考えて、具体的な表現を検討しては。

《委員》

全体的に、外国人住民に関する記述が少ないと感じた。調べたところ高岡市には、約4600人、人口の約3%の外国人がいる。外国人のこどもたちが学習についていけなくなって、就職が難

しくなるという現状がある。民間でも外国人への学習支援、就職支援をしているが、行政が支援してもいいのでは。6（1）地域における生涯学習の充実に「地域住民が年齢や国籍を問わず」と書いてあるが、外国人住民の深刻な問題としての記載や、7（2）にも、「こどもたちが抱える課題は複合化、複雑化」とある内容をもう少し具体的に記載したほうがいいと感じた。

《事務局》

不登校、外国人児童生徒などの問題に対応するため、4月に教育総合支援センターが開所した。心理士や特別支援の経験者などが相談業務に携わっており、特別な支援が必要な部分については医療機関とも連携している。不登校については、学校だけでは対応が難しく、学校、行政、家庭、地域、みなさんでサポートしている状態。外国人児童生徒についても多様化、多言語化しており、民間団体とも協力し、日本で生きていきたいという児童生徒のため、学習サポートと高校とのつながりも教育総合支援センターで取り組んでいる。

総合的にというのは各機関の連携強化だと思っている。教育総合支援センターは、人と人が繋がっていくための場所であり、どう活用していくか、どうサポートしていくか、それぞれの力をどう結集させるか大きな責任だと思っている。

《委員》

基本構想があって、基本計画があるという認識だが、「住みたいまち」や様々な個別分野の計画がどうリンクして政策分野が生まれてきたのか、経緯を確認したい。前回の第4次計画から引き継いだのか、ゼロからなのか。

《事務局》

基本構想を含む総合計画の議論を進めるにあたって、まずは、目指すまちの姿を設けるところから始めた。第4次基本計画では17あった目指すまちの姿を、次期総合計画では12項目に再構成し、関連した政策分野で区切り、施策を整理した。

全体の議論の流れとしては、12の目指すまちの姿や政策分野を整理した上で、基本構想を作り上げ、今回、目指すまちの姿を実現するための課題や施策の展開等をどう進めていくかを検討するといった順番で進めているところ。

《委員》

第4次計画では、人や子ども・子育てに特化した考え方があり、その分野とのつながりが見えていた。今回の計画や基本構想でもそのつながりが鮮明に見えたら、共感を得られると思う。

人口が減少していくことを前提に、こどもを産み育てやすい社会をどう作るかを考えなければならない。教育・保育サービスの充実や、妊婦・出産支援もそうだが、こどもを産み育てやすいまちをつくっていく空気感が大事である。

例えば射水市は、子育て施策がいいとよく言われる。高岡市も負けていないくらいの施策に取り組んでいるが、射水市にはその雰囲気がある。民間も含め、子育てがしやすいといった空気感を生み出すことが大切である。

こどもたちが夢や希望をもってとめざすまちの姿にも書いてあるので、高岡でチャレンジしたいと思えるようなものがあってもいいのでは。小中学校、高校、大学との連携を図っていく中、高岡で夢や希望を持ったこどもたちが生まれてくる環境づくりが大切。

また、子育てと福祉（こどもと高齢者）を別々で考えるのではなく、どちらも地域で、複合して考えるのも1つだと思う。高齢者とこどもたちとのレクリエーションでは、高齢者もこどもたちも喜んでおり相乗効果がある。こうした形の施設が生まれていくといい。

《委員》

6（3）若者が地域で活躍できる場づくりと地域ぐるみの青少年育成の推進は一緒にしたらよいのでは。

《事務局》

若者が地域で活躍できる場づくりは、高校生が地域でチャレンジしやすいように、市内企業と高校生をつなぐ取組をイメージしている。地域ぐるみの青少年育成の推進については、若者と一括りにできないところもある。保育所と学校は、まとめられなくて分散しているところもあるが、「多文化共生」や「地域づくりの推進」といった大きな考え方を持つことも必要。

今後、さらに整理していく中で、一緒にできるものがあるか検討させていただく。

《委員》

県外に進学したこどもが、そのまま県外で就職を希望している現状、県内にいるこどもも県外への進学を希望している現状がある。

県外に出て行ったこどもたちがUターンしたいと思うかどうかが重要。未来の高岡の方向性を決めていくにあたり、高校生や大学生の意見は必要では。今のこどもたちが10年後を支えるということ念頭に、こどもたちの意見を聞く場が大切である。

《部会長》

パブコメなども実施すると思うが、こどもまんなか社会ということで、今後のプロセスの中でそのような予定はあるか。

《事務局》

今ほどの意見については、様々な場で若い人の声を聞いた方がよいと考えている。夏頃には高校生との意見聞く場・機会を作っていく。様々な意見を聞きたいと思っている。

《委員》

なぜ子育て・教育・スポーツの分野に芸術文化がないのか。この分野に芸術文化を入れることを考えていただきたい。

学校の再編統合については、広い校区の統合となると大変難しい。今後30年の教育ビジョンがはっきりと示されないと、小中一体となって進んでいる校区と、そうでない校区に教育の差が出るのではとの心配もある。そうしたことも考え、示していく総合計画になれば良い。

医療的ケア児や発達障害といったことに、もう少し触れた方がいいのかなと思う。総合計画なので代表的な人たちが基本にはなっているが、様々な人に目を向ける計画、弱者に寄り添った高岡市であるべきでは。

《事務局》

芸術文化活動については、別の部会の項目で検討している。第4次計画から、歴史文化や芸術に関する項目は、交流・観光の分野内で検討しているところ。

《事務局》

再編については、統合すると1,000人を超えるような校区が残っている。定員数が減ったから統合するものではないが、どの時点で、どう判断していくかは難しい。ここまでは計画に基づいて進んでいるが、人口動態に基づき、再編統合を検討していく。

特別な支援が必要なこどもについては、保護者も大変心配しているところ。医学的なアプローチが必要なこどももあり、支援へとどうつなぐのか、関係機関とも連携して検討していきたい。

《事務局》

高岡市が子どもを産み育てやすいまちであってほしい、射水市はその雰囲気があるとの話があった。市でもそうした話を聞くことがあるが、支援策やサービスはそれぞれで違い、それぞれに良いサービスがある。市の施策や取組をわかりやすく発信していきたい。

《委員》

情報発信の問題はあるが、射水市は政策が早い。こども医療費の無償化についても、射水市の方が早かった記憶がある。他市ではまだ実施されていない段階でスタートするので、子育てしやすいまちだと感じるのでは。

高岡は、中高一貫校などの検討が可能な都市だと思う。高岡市の特色あるものをやっていただければ、高岡市で教育させたいという人が増えるのでは。

《事務局》

県では高校再編が進められており、注目されている。高岡には、県立だけでなく私立も3校あるが、多くの生徒は県立に目が向いている傾向がある。また、高岡は工業科や商業科も根付いているまちでもある。どういう方針で進めていくかを決定するのは県だが、呉西地区で生徒数も多い市ということで、高岡のこれまでの文化・特色を活かして、魅力ある高校をつくっていく必要性はしっかりと県にも伝えていく。

《アドバイザー》

課題からスタートして解決策を議論するフォアキャストではなく、10年先は社会がどう変わるのかということから、バックキャストして考えることが重要。

いろいろな事例を見ていると、自治体が何でもやってくれる時代ではなくなった。市民参加型が当たり前で、私たちがどうしたいかを行政に伝えていかなければならない。

これからの高岡を担うのは若者であり 10 年後、社会がどう変わっているのか、どういった教育を進めていくべきかを考える必要がある。

専門性（知識、スキル）と人間性（人格、価値観）の二つの軸から考えると、現在の教育は専門性が重視されている。今後、専門性は A I が担っていくことになる。私たちに求められるのは、人格や価値観といった人間性の重要性を子どもたちに教えていくということ。

総合計画の目玉となる事業を各部会で 2 ～ 3 個選んで、打ち出していくのが良いのでは。

《部会長》

委員の皆様からいただいたご意見については、一旦、私に預らせていただき、修正が必要な箇所は修正し、今後の総会に提出する案を作成させていただく。本日は長時間にわたりご審議いただき、感謝申し上げます。

6 閉会

（以上）